

第2回 令和5年台風13号災害対応に関する市民懇話会 議事録

1 日 時 令和5年12月20日（水） 午前10時から正午まで

2 会 場 日立市役所4階 庁議室兼防災対策本部室

3 出席者

区 分	人 数	備 考
委 員	18名	座長 信岡 尚道 委員（茨城大学工学部教授） 副座長 中島 美那子 委員（茨城キリスト教大学教授）ほか ※欠席者 4名
事 務 局	11名	総務部長、市長公室長、財政部長ほか
その他職員	13名	総務課長、政策企画課長、各部政策監ほか

4 議事内容

(1) 災害対応に関するこれまでの委員からの意見等について

（事務局から資料1から資料4までを一括して説明）

【委員からの意見等】

発 言 者	内 容
委員	家屋被害の罹災調査結果と内水ハザードマップについての資料を示していただいたが、道路の冠水箇所をまとめたマップはないのか。
事務局	道路被害等に関する通報がどこから入って、どのように対応したかについては、都市建設部で記録しているが、道路の冠水箇所をマップに落とした資料はない。
委員	台風当日の19時30分頃にけやき通りを通過したときに、車が8台くらい水没していた。冠水箇所をまとめたマップの方が、生活していく上で必要な情報であると思うため、今後、まとめていただけるとありがたい。
事務局	ご意見を共有させていただき、検討したい。
委員	内水ハザードマップは、各小・中学校からの情報等も加味されて作成されたものなのか確認したい。
事務局	各小・中学校からの情報等は加味していない。今回の内水ハザードマップは、1時間に153ミリの最大規模の降水量があったときに、どのような浸水が起こるかということをシミュレーションした結果になっている。
委員	実際に、災害が起きた後に学校は再開しているため、やはり子どもたちや保護者、教職員の方々からの情報も加味すると、さらに細かい対応が可能なマップになると思う。

発 言 者	内 容
座長	<p>只今の意見は、災害が起こる前を想定したハザードマップに家屋被害があった場所を重ねるだけではなく、その他のいろんな情報も入れ込んだ方がよいということだったと思う。市全体として、まとめることができれば一番良いが、まずは、コミュニティの防災マップの作成から始め、その後、追加の情報を入れ込んでいく形がよいと思う。できるコミュニティからやってもよい。</p>
委員	<p>内水ハザードマップの内水という意味がよく分からない。</p> <p>例えば、日高地区には東連津川があるが、日高地区で一番に被害を受けたのが常磐線を挟んだ山側の東連津川エリアであり、大雨当時は、東連津川が二つの川のように分かれて流れ、辺り一帯が水浸しになった。</p> <p>永井ひたちの森病院の駐車場に 20 cm から 30 cm 程の木材が何十個と流れ着いた写真が新聞に掲載されたように、その原因は、奥の山で間伐された木が東連津川に流され、途中で川を堰き止めたからだと思っている。</p> <p>今回、市から示された罹災調査結果と内水ハザードマップの資料を見ると、全然何もなかったようになっているが、当日、そのエリアに人が立っていたら、被害に遭っていたのではないか。マップと実態が異なるように見える。</p> <p>そのため、浸水が起きた箇所を含めたマップを作成した方がよいと思った。</p>
事務局	<p>本日、お示しした資料は、家屋被害の罹災調査結果のデータを内水ハザードマップに落とし込んだものであるため、委員からご意見があった流木とか、家屋の浸水被害以外の情報は落とし込まれていないマップになっている。</p> <p>河川の溢水箇所については、今後、河川の流域の治水計画を整理していく予定であり、溢水した場所や今後の対応については検証を進めているところである。</p> <p>委員からのご意見は庁内で共有したいと思う。</p>
座長	<p>多くの情報が集まってくるのは良いことだと思う。ただ、この情報があるところで必ず災害が起こり、ないところは全く起こらないわけではない。</p> <p>例えば、30年前に大雨で大変な思いをした地区では、家の嵩上げをしているため、今回の浸水記録には載らない。一方、今回、道路等が浸水しているのに、色やマークが付いていなければ、災害時に安全な場所とは言えない。</p> <p>したがって、分かっている情報だけが記録として残されているという見方をすることが大切だと思う。</p>
委員	<p>今回の災害において、床上・床下浸水というものが大きく取り上げられているが、土砂崩れ等により家屋が倒壊した実態はあったのか。</p>
事務局	<p>浸水以外の件数では、全壊が 1 件、半壊以上が 5 件あった。</p>
委員	<p>なぜ質問したかという、十王地区の生活道路が未だに片側通行になっているからである。今後どのような形で復旧するのかを含めて、今回の土砂崩れについても調査を行っていただきたい。</p>

発 言 者	内 容
座長	<p>あまり時間を置かないうちに、災害の全体像をできるだけ記録に残しておいた方がよいと思う。</p> <p>市が持っているたくさんの情報をマップに落とし込めるよう、しっかり保管しておくとともに、それだけではカバーできない部分については、コミュニティが中心になるかもしれないが、改めて市民の皆様から情報提供をいただくという形にしていけばよいと思う。</p>
委員	<p>例えば、資料2の3番の日高・田尻・宮田地区においては、日立武道館周辺で床上あるいは床下浸水が多数見受けられるが、このエリアの被害については、県が管理する河川であるため、今回の内水ハザードマップには浸水想定区域が載っていないという説明があった。</p> <p>今後、県が管理する河川のエリアでこういった被害が想定される場合、日立市は様々な予防措置を行うのか、あるいは、県が管理する河川であるから、対象外になるのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>国・県・市の管理に関わらず、市としては、市民の皆様には危険箇所を知っていただくことを前提としている。</p> <p>県の方でも令和6年度内には、自らが管理する2級管理河川について、洪水の浸水想定区域を指定することになっている。</p> <p>そのような情報についても市のハザードマップに反映し、更新していけるように取り組んでいきたい。</p>
座長	<p>私の知っている情報で補足すると、他の市町村の担当者に浸水被害のあった2級河川に対して新たなハード対策を取るのかと尋ねたところ、「今壊れた部分を直すだけで精一杯である」という回答であった。</p> <p>やはり、新たなハード対策はすぐに取り組むことが難しいと思うため、そのような考え方で何とか対策を検討していただきたい。</p>

## (2) 意見交換

### ア 情報の収集・伝達

#### 【委員からの意見等】

発 言 者	内 容
委員	<p>前回の懇話会において、「防災無線がよく聞き取れない」、「雑音で何も聞こえない」、「雨風が酷いと聞きづらい」という意見があった。</p> <p>屋外拡声子局を増やすことも対策の一つであると思うが、個人的には、防災無線から最初に流れるチャイムの音の大きさや種類を変えることが良いと思っている。普段は静かな音量が良いが、災害の危険レベルに合わせて、音量を大きくしたり、あるいは、Jアラートのように不安を感じさせるような音にすることにより、聞いている市民は「今回の雨は普段と違うのか」と思ったり、「今日は早く家に帰って何か対策を考えよう」とか、「家族に連絡しよう」というように感じるのではないかと思う。</p>

発 言 者	内 容
	<p>一方、戸別受信機については、前回の懇話会において、家にあっても電源が入っていない家庭があるという意見があったが、若い世代の方たちはスマートフォンで市からの情報を入手したり、前回の懇話会でも意見があったように、お母さんたち相互のネットワークを通して情報を交換し合ったりしている。また、屋外スピーカーから防災無線が入っても聞こえないときは、2階の部屋など聞こえる場所に移動して窓を開けたり、家の外に出て聞くことができると思う。</p> <p>しかし、一人暮らしの高齢者や高齢のご夫婦、足腰が悪くて防災無線が聞こえる場所に移動できない方、スマートフォンを持っていない方は、テレビをつけても自分の地域がどういう状況になっているのかが分からないため、特に高齢者の世帯には、「戸別受信機が設置されているか」「電源が入っているか」など電話や訪問により確認することが大事ではないかと思う。</p>
座長	<p>私が知る限り、防災無線が全国でうまく聞こえているところはなく、おそらく95%の人は聞こえていないか、聞き取れていないと思う。</p> <p>そのため、水戸市では令和元年の洪水の際に、大きな音でサイレンを流して住民への周知を行った。住民としては、本当は流してほしくなかったが、「川沿いや低地の方がそれで助かるのであれば、それは良いことだから」と理解されて、そのようなサイレンで周知したわけである。</p> <p>防災無線で、そのような普段と違う音を流すことによって、危機感だけは伝わると思う。</p> <p>一方、それ以外の方法で伝えようとする、聞こえない人は聞こえないという前提で、聞こえない人への対応をしっかりと考えていかなければならない。</p> <p>そのため、今いただいたようなご意見やアイデアも含めて、多くの市民の方に、どのような状態であったら全員に伝わるのかということを確認していくことが必要であると思っている。</p> <p>最後に、戸別受信機の電源が入っていない状況は、どうしても起こってしまうため、台風が通過しそうで危険なときは、戸別受信機の電源が入っているかの確認を防災無線などで周知したり、近所の人を伝えて防災行動を確認してもらおうという方法もあると思う。</p> <p>また、費用が掛かってしまうかもしれないが、戸別受信機に録音機能を備え、聞き取れなかった場合には、再生ボタンを押して確認するという形もあるため、そういうことも検討していく価値はあると思っている。</p>
委員	<p>防災無線が普段でも聞こえないという声が上がっていると思うが、特に老年寄りの場合、低い声が聞こえない方が多いようである。また、風向きによっても聞こえないという声も私どもに届いているため、そういったことも加味すると、先程の水戸市の事例のように、緊急時のけたたましいサイレンの音が効果的であると思った。</p> <p>特に、年を取ると音が聞こえなくなるため、クリアな音を出す方法も考え</p>

発 言 者	内 容
	<p>ていただきたいと思う。</p>
事務局	<p>この件について、市としては啓発や広報が必要だと思っているが、防災無線で聞き取れなかった場合には、確認ダイヤルに電話をしていただくと、実際に流れた情報を確認することができる。</p> <p>また、音が聞こえにくい場合には、業者が自宅を訪問して、受信環境を確認して改善するようなことも行っている。</p> <p>今回、防災無線について様々なご意見をいただいたため、今後、市報やホームページなどを通して、防災無線に関する周知・広報を行っていきたいと思っている。</p>
座長	<p>高齢者の方には、いろいろな手段を用いて、できることを用意しておくことが必要である。高齢者や子ども以外のほとんどの方は、スマートフォンや携帯電話を持っているため、それらを活用して、市民全員に情報が届くような仕組みを作っていくことが良いと思っている。</p>
委員	<p>先程、高齢者の方への情報伝達という話があったが、私たち地域包括支援センターや各コミュニティは、避難行動要支援者名簿に登録されている方のお宅を訪問しているが、固定電話がなかったり、戸別受信機の電源が入っていない以前に、そもそも電気が止められているお宅もあるため、結局は、アナログ的に訪問して促していくしかないものと思っている。</p> <p>その役割を担う地域包括支援センターに避難発令の情報が届かなかったため、地域で見守りをしている関係機関への情報伝達は重要であると思う。</p>
座長	<p>確かにそうである。今回の項目分けにおいても、避難行動要支援者は、それ以外の一般的な対応だけでは無理であるため、特別に区分けをしたところである。また、そのところで議論させていただきたい。</p> <p>この後も情報伝達の話が出てくると思うが、今回のような線状降水帯並みの状況になったときに、どのタイミングで、どのような情報を出せばよいかについては、様々な専門家の意見を聞きながら検討していく必要がある、すぐには解決できないと思っている。</p> <p>一方、情報を伝達するためには、結局、訓練までしないと駄目だと思っている。情報伝達の訓練を行うことにより、うまく伝わらない人が判明し、その方への対応策を検討する必要があるからである。</p> <p>とにかく、方法論を作るだけでなく、市民参加による訓練までを行うことで、情報が市民に届くか届かないかの検証を行うところまで、提言に入れ込みたいと思う。</p>
委員	<p>河川監視カメラについては、行政でも整備していると思うが、状況は分かるにしても、夜間は完全に白黒で、どの辺りから水が出ているのか、あるいは、雪が降ったときは、カメラに着雪してカメラの機能を果たさない場合があるため、状況が確認できるように映像をカラー化するなどして、うまく活用できれば良いと思う。</p>

発 言 者	内 容
座長	<p>夜の大雨で、風が吹いていたから見えないため、あくまでも補助的に活用するしかない。</p> <p>元々、大雨のときに河川の様子を見に行く方が多く、全国でも足を滑らして流されてしまうという事例があるため、それを防ぐために河川カメラが設置されている。そういう意味では、命を守るために役立つものと言える。</p> <p>ただ、別の情報伝達手段があるならば、監視カメラを設置する必要はないし、河川の様子を見に行かなくても済むので役に立つという声があるのであれば、設置することを考えた方が良いと思っている。</p>
副座長	<p>情報弱者として、例えば、外国にルーツのあるご家庭があると思うが、数年前の常総市の水害のときも、その方々が被害に遭われたという話があった。</p> <p>常総市は、外国にルーツのあるご家庭の割合が多いため、多言語を用いて、いろんな情報を提供する仕組みを作ったという話を聞いた。</p> <p>日立市も、そういった情報弱者、特に外国の方に向けて情報を提供する仕組みづくりを進める必要があるのではないかと思った。</p>
座長	<p>いろいろな方がいらっしゃると思うが、日立市に住んでいる全ての方に情報が正しく理解され、伝わるところまでを目指すべきだと思う。</p>

## イ 避難所の在り方

### 【委員からの意見等】

発 言 者	内 容
座長	<p>避難場所と避難所、自主避難の受入れシステムをトータルに提言したい。</p> <p>今回は、避難するか、自宅にいるかの判断が必要であった。自主避難の受入れに当たっては、早い段階から開設する必要がある。</p>
副座長	<p>前回の懇話会においても少し話をしたが、男性だけでなく、女性からもたくさん意見が出て、とてもよかったと思っている。</p> <p>私は心理士であり、子どもやその保護者の方たちの支援も専門にしているため、やはり気になるのは、避難所の雰囲気や居心地の良さなどの環境づくりである。</p> <p>今は大変な時代になって、子どもたちがいろんな事件や災害、戦争に巻き込まれ、トラウマを抱えてしまっている子どもたちが多い。それは決してその状況だけが原因ではなく、子どもたちに対する周囲の大人の対応が大きな影響を与えるという研究結果がある。</p> <p>例えば、避難所の中でも、子どもたちの中には狭い場所が我慢できず、じっとしてられない子もいるし、大きな声を出したり、泣いたりする子がおり、周りの大人がそれを理解して、いかに対応するかが非常に大事になってくる。</p>

発 言 者	内 容
副座長	<p>そのため、避難所を担当される方は、そのような状況が起きたときに対応できるように、事前の研修や話し合いをしておく必要があると思う。</p> <p>やはり、避難してきた誰もが周囲から温かく見守られ、自由に発言できるような雰囲気づくりが避難所には必要である。決して子どもだけではなく、あらゆる方たちがそういった心理面での居心地の良さを感じる避難所環境をそこにいる全員で作ることは可能であると思うため、その辺も提言に入れ込んでいただけるとありがたい。</p>
座長	<p>ぜひ提言に入れ込みたいと思う。</p> <p>男性や女性だけではなく、いろいろな方のことも考えないといけない。</p>
委員	<p>先程の中島副座長の話に関連するが、この資料を見ると、物陰を作らない避難所のレイアウトと記載されているが、例えば、今、企業では電話ボックスみたいな形の個別のブースがあり、それはより簡易的に現場で組み立てることができる。そういった四方に囲まれた個別のブースを設置することにより、お母様方は安心して授乳できるようになると思う。</p> <p>また、小さなお子さんは、どうしても泣いてしまったりするが、避難されている方は心の余裕がなく、その泣き声に対して、どうしても過剰に反応される可能性があるため、お母様方は怖くて避難所に行きづらいのではないかと思っている。</p> <p>そのため、小さいお子様をお持ちのご家庭用に、別の避難所を設置しておけば、お母様方は安心してそこに避難できるのではないかと思う。</p>
委員	<p>「これまでの委員からの意見について」の中で、「避難所の在り方」のうち「避難場所の見直し」の部分で一つ気になったところがある。下段に「市の避難所だけではなく、近隣の集会所や学校、市の施設など近くの避難所の開設、呼びかけが良い」とあり、改善策の方向性として、「避難場所の見直し」、「避難所の運営体制の見直し」、「避難所の環境整備」の3つが示されている。</p> <p>避難所については、前回も提案したように、ぜひとも近場の避難所を作っていたらいいと思っている。</p> <p>私の居住する成沢地区は、国道6号線を挟んで、山側地区と中成沢地区に分かれるが、大雨の中、山側地区の青葉台団地から避難所の成沢小学校まで避難をしようとしても無理である。そのため、山側地区は産業支援センターや日立工業専修学校を、中成沢地区については、成沢小学校と成沢交流センターをそれぞれ避難所として設置できると思っている。</p> <p>ぜひとも避難所の見直しを行っていただき、今後に生かしてもらいたい。</p>
座長	<p>只今の意見も反映する形で議論を進め、まとめていきたいと思う。</p>
委員	<p>市内23学区にはコミュニティ推進会があつて、それぞれ活動しているが、この避難所の開設に当たっては、それぞれの学区でも開設訓練を行っている。</p>

発 言 者	内 容
	<p>開設訓練は、コミュニティの自主防災部などが主体となり、今、話が合ったような小型テントやダンボールベッドの組み立てを主に行っている。</p> <p>子どもたちも授業の中で、近隣の大人の方と一緒に楽しみながら訓練に参加し、防災について勉強しているので、報告させていただきたい。</p>
座長	<p>防災キャンプも含めて避難所の開設訓練など、いろいろと取り組んでいる事例をどんどん広げていけると良いと思う。</p>
委員	<p>人への対策も必要だと思うが、ペットを飼っている世帯への避難所の在り方や支援も考える必要があると感じた。</p> <p>ペットを飼っている世帯は、周囲の人に迷惑をかけないかという不安から、なかなか自分が危険と分かっているにもかかわらず避難できない方が多く、私自身も犬を飼っていて、自分が危険な状態にあっても、ペットを置いて逃げることはできない。そのため、ペットと共に避難できる避難所の需要は、かなり高いと思っている。</p> <p>全ての避難所でペットを飼っている方への支援を行うことは難しいと思うため、市内に数か所でも、そのような避難所を設置できれば、ペットを飼っている世帯も安心して避難所へ行くことができると思った。</p>
座長	<p>ペットを大切にされている方は、ペットを本当の家族と思っているため、その命もしっかり守る日田市であってほしいと思う。この辺もぜひ考えていきたい。</p>
委員	<p>今回、開設した避難所の中で、人数が一番多く集まったところと少なかったところを教えていただきたい。</p> <p>東日本大震災のときは、何百人という大人数が体育館に集まった感覚があるが、それ以外の普段の避難所開設時は、それほど多くの人数が集まっていないと思っている。</p> <p>今の気候は、すごく暑かったり、寒かったりするため、避難所が学校の体育館では、非常に居心地が悪いと思う。また、私も避難所運営を行ったことがあるが、避難者は、広いところにぼつんとしていて、とても可哀そうな気がしてならなかった。だから、学校の体育館にこだわらず、例えば、学校の多目的ルームのような場所を避難所にすれば、エアコンも設置されているし、トイレもたくさんある。また、交流センターには畳があり、冷暖房も完備されているため、そのような場所を避難所とすることができると思っている。</p> <p>とにかく、もっと融通を利かせて、居心地の良い避難所にしてほしいと思う。</p>
事務局	<p>今回、9月8日から9日にかけて避難所を開設したが、避難者が一番多く集まったのは、9日の午前0時で合計83名であり、そのうち、一番多く集まった避難所の避難者数は16名であった。</p> <p>一方、一番少なかった避難所は1人か2人で、中には避難者が全く来なかった避難所もあった。</p>

発 言 者	内 容
座長	<p>これは、検討していかなければならない課題と思っている。</p> <p>避難所開設の最初の夜は、被害状況や避難者数等の情報が足りないため、分からない状態で何とか対応するしかないが、2日目になると整理ができるため、うまく調整して良い形ができるのではないかとと思っている。</p>

## ウ 要支援者等への対応

### 【委員からの意見等】

発 言 者	内 容
委員	<p>最近では、向こう三軒両隣というような暮らし方、地域の間関係が薄れていると感じており、そういう状況から、特に独居者を把握できるような仕組みが壊れてきていると思っている。</p> <p>日立市の高齢者の割合は34%、人数にして約5万8千人である。本来、こういった話をコミュニティ、さらには、もっと細かい地域単位で話し合いができれば、お互いが具体的にどのように行動すればよいか分かってくると思う。</p> <p>コミュニティでも、若者がこの辺に住んでいるとか、離れたこの地域には昔から住んでいる人がいるなどといった情報は押さえていると思う。今、一つひとつ具体的に見ていっても、最終的には人との繋がりによって何とか解決するしかないと思っているが、これからは、その人間関係づくりが一番の課題であると感じている。</p> <p>また、市にはいろんな計画があると思うが、その計画を作ったにしても、その計画をどこまで住民に浸透させ、実効性のあるものにしていけるかについても、一つの大きな課題だと思っている。</p>
座長	<p>非常に大切な意見だったと思う。</p> <p>計画を作っても、計画上、支援する人がそのときに動けなければ、計画と違って、他の誰かが代わりに支援しなければならないことが起こったりするため、計画を作る際は、かなり余裕を持って、本当にそれが確実にできるように組み立てていかなければいけないと思っている。</p> <p>その中で、骨格の⑪の部分について補足をさせていただくが、水戸気象台の三井台長から、災害対応に当たっている人の家族のことも考慮することも提言に入れ込み、広めてほしいと言われた。</p> <p>確かに、要支援者を支援する地域の方や市の防災に当たる方も大切な家族を守らなくてはいけない立場にあるため、このような考え方は非常に重要だと思った。ただ、そのためには、相当早くから動き出して、全員が助かるような組み立てを考えなければならない。</p> <p>また、骨格の⑫の部分についても補足させてもらうが、今後、要支援者の人数はどんどん増えていくため、それに対応できるように、余裕を持った計画を作っていくことが大切である。</p>

発 言 者	内 容
座長	<p>例えば、来年うまくできるようになった計画を作ったとしても、その状態でできるか、あるいは、ギリギリの状態だと、再来年以降は厳しくなって、その計画自体が実行できなくなる可能性がある。</p> <p>そのため、長期的にも継続可能な計画を考えていくことが必要であるということを⑫のところでは書かせていただいた。</p>
委員	<p>私は、民児協から出ているため、日々、要支援者の支援に当たっているが、これには難しいいろいろな問題がある。</p> <p>今回の台風 13 号のときも、市から各コミュニティに対し、ハザードマップ内にいる要支援者と連絡を取るよう連絡が入ったが、要支援者との連絡のやり取りが非常に問題だと感じている。</p> <p>実際にあの大雨では、要支援者宅に行くことができないため、電話で連絡を取るしかないが、あの大雨の状況で要支援者に「逃げてください」や「避難所が開設されたから行きますか」とは言えない。要支援者は高齢であるため、コミュニティ側としても、動かずに、できるだけ安全な場所にいてもらった方が良く思っていて、当然、要支援者からも「そうします」という返事をもって対応したところである。</p> <p>先程、避難所の話があったが、市では、東日本大震災以降も何回か避難所を開設しているが、基本的に、避難所に避難する方はほとんどいないと思う。私が知る限りでは、今回の台風の当日に日立市に出張に来ていた方が、帰れなくなって泊めてほしいという話を聞いただけで、本当に動くのが大変な人に「避難所に行ってください」という指示はできない。</p> <p>本当に大変なときは、避難誘導そのものができないはずである。よく大きな震災被害に遭ったときは、人は必ずバラバラになると言われる。助けに行く人が、助けを待っている人の所へ行くと、待っている人は逃げることができず、津波に襲われ、助けに行く人も同様に津波に襲われてしまうことがあるように、避難が必要になるときは、助けに行けるような状態ではないということである。助けに行けるとしたら、ある程度事前に予想ができる台風の時だけである。</p> <p>また、緊急避難のときに要支援者を支援する人を予め決めておく仕組みが始まっているが、「私が助けに行きます」と責任をもって言える人はいない。先程、座長から話があったように、自分の家族もあるし、自分のこともあるし、その名簿に自分の名前が記載されてしまったら、それこそ大変なことになる。</p> <p>現在、市では個別避難計画の見直しを行っているが、それまでも要支援者の避難行動計画は作成されていて、そういう事態になったら、「行けるときに支援に行ってください」という程度であったため、近所の人名前を書いて名簿を作成していた。</p> <p>しかし、今回の見直しでは、大変な事態となったときに、誰が助けに行くかをきちんと決めてほしいと言われても非常に難しい。</p>

発 言 者	内 容
	<p>私は民生委員でもあるため、市役所から避難行動要支援者名簿への登録を希望する方のお宅に行き面接をすることがあるが、近くに家族が住んでいる場合には、その家族に支援をお願いしている。</p> <p>実際に、避難行動要支援者名簿に登録する方は、自分の体が大変だと思っている方であって、明日どうなるか分からない方たちである。</p> <p>そうすると、災害が起きたときに、私たちに余裕があれば、声掛けや助けに行くことができるかもしれないが、やはり基本的には、日頃の見守り体制をしっかりと構築しておくことが大事だと思っている。</p> <p>日頃の見守り体制として、日立市では社会福祉協議会が「あんしん・安全ネットワーク事業」を行っている。見守り支援は、社会福祉協議会関連のボランティアや民生委員のほか、コミュニティの防災部や事務局で対応している。</p> <p>今は社会福祉協議会がコミュニティの中に入っているため、コミュニティによっては、その役割を民生委員が担っているところもある。</p> <p>その結果、一人の民生委員が10人も20人も見守りを担当する状況になってしまうが、一人の民生委員が日頃10人や20人を見守りに行けるかというと、おそらく無理である。</p> <p>そのため、コミュニティの中でも一人で3、4人程を見守る組織に改編して、ピラミッド型で上からの指示やいろんな情報が流れるような体制を構築していかなければいけないと思っている。</p> <p>また、行政の方も、現在、別組織で動いている見守り支援と避難行動要支援の対応を一元管理とする計画の作成をぜひとも進めていただきたく、要望したいと思う。</p>
座長	<p>災害のときに限った話ではないが、できないことはできないと言える社会にならないといけないと思う。</p> <p>最近では、SNSなどいろいろなツールが発達して、声を上げやすい人だけが声を上げ、声を上げにくい人からは上がってこないような社会になっている気がする。</p> <p>最終的には、厳しいことを言ってしまうが、安全な場所に住んでもらうしかないと思うが、そういうことも本音で言える社会にしないと限界がきてしまう。こうした貴重な意見も提言の中に生かしていければと思っている。</p>
委員	<p>先程、要支援者が避難しないという話があったが、実際のところ、皆さんほぼ避難しないのが現状である。</p> <p>また、事務局から今回の台風13号で家屋の全壊被害が1件あったという話があったが、その1件に私の方で関わった。その家は住めない状態で、別な場所に移らないといけないのだが、やはり説得が一番時間がかかった。</p> <p>どう考えてもこの家に住むことは無理だと誰もが分かっているけど、やはり住んでいる本人からすれば、長年住んできた家から離れることは、仮に命の</p>

発 言 者	内 容
	<p>危険があったとしても、難しい決断であったと思う。</p> <p>やはり、いろいろと個別避難の計画を立てたとしても、実際に本人が避難しない可能性が高いということも踏まえて、今後、意思確認をどうするかということも考えていかないといけないと思った。</p>
座長	<p>よく災害のときに陥ってしまうのは、紙で計画を立てたが、実行できない計画になってしまうことである。実行できない計画になるぐらいであったら、最初からできないという声を上げ、別の解決策を見出していく形を日上市ができれば良いと思っている。</p> <p>この問題も非常に深い問題であり、社会福祉協議会や民生委員の方々だけでなく、もっと他の人にも広げて状況を知ってもらうことが大切であり、議論を重ねていく必要があるのではないかとと思っている。</p>

## エ 地域における協力連携

### 【委員からの意見等】

発 言 者	内 容
委員	<p>コミュニティに関しては、町内会の解散や高齢で次の年の役員がいらないなどの事例が、成沢学区ばかりではなく、他の学区においても、相当上がってきているのではないかとと思っている。</p> <p>自分たちの住んでいる地域は自分たちで守るという「共助」が基本であるが、「実質的に町内会ができていない」、「市報は市で配ってもらえる」、「防犯灯も市で管理してもらえる」ということで、「私達は一体何をするのか」というふうに突き詰めたときに、「町内会はいらないのではないかと」と軽くあしらわれている現状がある。</p> <p>そこをコミュニティとして、どう乗り越えていくかということ、これから考えなければいけない時期に来ている。</p> <p>そういう意味で、本当に向こう三軒両隣という昔からの良い伝統があるが、それがだんだんと薄れてきている状況にあるため、今後の対応を考えていきたいと思っている。</p>
座長	<p>私としても、そこまで深刻な状況になっているとは知らなかった。</p> <p>提言の中で、改善策の方向性として、地域コミュニティや関係機関の連携強化についてどう書き込むかが重要になるかもしれない。</p> <p>実際にコミュニティが機能していないのに、コミュニティならできると決め付けてしまうと大変なことになるため、その枠組みを何か考えなければいけないと思った。</p>
委員	<p>現在、コミュニティの在り方検討委員会では、令和4年度からの10か年計画で35の行動計画を作り、持続可能なコミュニティに向けて取り組んでいるが、先ほど話があった成沢学区も理事会の解散とか、他の単会でもかなり多くの問題点を抱えており、組織の見直しや新しい人材の育成等をどのよ</p>

発 言 者	内 容
	<p>ように行っていくかの議論を進めている。</p> <p>そのような中、若い人を中心にコミュニティ活動に参加してもらうため、来年3月には、コミュニティとして「まちのコイン」を導入し、市内に100スポットぐらいを作り、まちのコインを機能させる予定である。裾野を広げる意味でも有効なツールであると思っているため、研修会等を通して勉強し、導入に向けて頑張っているところである。</p> <p>各単会として、個々にいろいろな問題を抱えているが、共通の問題については共通の場で話し合い、解決策を見出しながら、活動を展開しているところである。</p>
座長	<p>今のご意見の中で特に関心を持ったのは、若い人を入れてコミュニティを活性化していこうという取組である。やはり、支援を回さない限りは、今日、話し合っている問題もかなりの部分が解決できなくなってしまうため、そういった災害を超えた部分が、この「(4) 地域における協力連携」では重要になってくると思った。</p> <p>また、災害が起きると、社会の弱い部分がすごくクローズアップされて、浮かび上がってくることがよくある。災害対応ではなくても、社会を強くし、社会を良くする形になる。</p> <p>そのため、コミュニティはコミュニティの中をよくすることで、それが最終的に解決策になっていくため、そういう形ができればよいと思った。</p>
副座長	<p>今のコミュニティの話聞いていて、若い方たちを巻き込んだコミュニティでないと意味がないと思った。若い人に頼るコミュニティではうまくいかない。</p> <p>やはり、災害が起こったときに、若い方たちを助けるといったコミュニティの作り方だと限界があるため、災害という枠を超えて、コミュニティをどう作っていくかが、今後、日立市が取り組まなければいけないところであると、皆さんの話を聞いて思った。</p> <p>そのときに、若い方に対して、できる範囲内でコミュニティの中で子育てなどのお手伝いをするような仕組みができていれば、災害が起きたときに、近所の若い方たちが「あのとき、優しい言葉を掛けてくれたよね」とか、「あの方はどうしているか見に行こう」というところに繋がると思っている。</p> <p>そのため、時間に余裕のあるシニアの方たちが若い方たちをお手伝いできる仕組みを、市全体で見直すことが必要なのではないかと思った。</p> <p>また、そういった形を学校教育の中で作れないかとも思っている。</p> <p>例えば、学校の課題として、自分の近所にお手伝いが必要な人はどこにいるのかを家族で話し合っ、その結果を学校のみんなと話し合う機会を設けるのも、子ども目線で面白いと思った。</p> <p>さらに、日立市には二つの大学があり、それは日立市の財産になっていると思う。今の学生たちは熱心にボランティア活動を行うため、ぜひ声掛けを</p>

発 言 者	内 容
副座長	<p>していただきたいと思う。ただ、その際に、休憩時間がなかったり、各自で水分を持参した方が良いなどといった情報が全くもらえず、手ぶらでボランティアに参加し、腰が痛くなったり、本当に疲労困憊で帰ってきた学生もいたため、ボランティアを募集する際は、また次も参加したいと思えるような形作りをぜひお願いしたい。</p>
座長	<p>防災にこだわらず、考えられるものを提言に入れ込めればと思っている。</p> <p>また、日立市の中でも、部局を超えた連携を取りながら、いろいろな施策に取り組んでいただきたいと思っている。</p>
委員	<p>以前、私が学校に勤めていたときの経験であるが、学校によっては、地域の要支援者の方のマップを作って、そこに定期的に訪問するというところがある。</p> <p>訪問された方からは、感謝の言葉がたくさん寄せられてきてくれるわけだが、何かが起こったときには、保護者の方もそこに顔出しに行く雰囲気ができているため、それも一つの方法だと思った。</p> <p>今の中学生は、本当にそういうことに心から進んで動いてくれるため、温かい地域をつくるには最高であると思っている。</p> <p>また、私は行政相談委員でもあるため、若い方数人と話をしたときに、コミュニティに入りたいが、他の地域から引っ越してきたため、なかなかそこに入りづらい、入る方法が分からないという相談を受けたことがあった。</p> <p>やはり、コミュニティ活動をされている方は、昔からそこで頑張っていて、地域を盛り上げてくださっている方であるため、そこに入るには相当の勇気がいるという意見をもらっている。そういった若い人たちもいるということを片隅に置いてもらえるとありがたい。</p>
座長	<p>市役所の中でも今話を共有していただき、ぜひとも良い形を作っていただければと思う。</p>

### (3) その他

#### 【委員からの意見等】

発 言 者	内 容
委員	<p>建設業協会は、市と防災協定を締結しているため、災害時には、緊急出動できる体制となっており、日立市は、十王地区から南部地区まで広範囲にわたるため、6地区に分かれている。</p> <p>今回の9月8日の大雨対応についても、市役所から通報があれば、すぐに6地区から動くことができたが、道路渋滞が発生している状況の中で動くのは逆に危険であったため、日をおいて対応した。市役所庁舎への対応については、当日、当社からも15人程が出動した。その他、多数の河川についても2週間をかけて対応に当たった。</p>

発 言 者	内 容
	<p>また、当協会は、県の高萩工事事務所とも災害協定を結んでいるため、県の担当班は、通行止めとなった県道日立山方線に土のう 600 袋を設置するなどして、片側交互通行ではあるが、一週間で通行を可能にしたところである。日立市は被害が広範になり、地域ごとに対応した方が良い。</p>
座長	<p>日立市の区域は南北に長いため、場所によって雨の降り方が異なり、被害状況も違っていた。やはり、降雨量が多かったところが被害を受けた場所だと思うが、それが次に違う場所で発生する可能性もあるため、そういう情報を整理し、共有していくことが大切である。</p>
委員	<p>資料 1 の 8 ページの「(5) その他」の一番上に記載されている「フェーズフリーな街づくり」は、非常に有効であると思う。フェーズフリーの考え方の五原則に「常活性」という言葉があるが、常に活用するという雰囲気をも市民と行政が手を組んで作っていただけると、非常にありがたい。防災公園とこれがセットになることもあると思うが、実際、他の地域でもやっているため、これを参考に日立市もできないかと思った。</p> <p>今回は風水害であったが、火災のときにも非常に有効になってくると思っている。</p>
座長	<p>日立市で何かフェーズフリーな街づくりに関する動きはあるか。</p>
事務局	<p>今のところ、それをテーマとした動きはないが、今回のご意見を踏まえて取り組んでいかなければならない課題であると認識している。</p>
座長	<p>もし担当しそうな課などがあれば、ご意見や考えていることを教えていただきたい。</p>
事務局	<p>これから検討させていただきたい。</p>

以 上